

日本子ども家庭福祉学会 第26回全国大会プログラム

大会テーマ:

「子ども“家庭”福祉」から「子ども“社会”福祉」へ

日時

2025年6月7日[土]▶8日[日]

会場

大阪公立大学なかもずキャンパス

1日目:Uホール白鷺 2日目:B3棟



公立大学法人大阪

大阪公立大学

Osaka Metropolitan University

目次

開催概要	2
大会参加者の皆様へ	4
自由研究発表について	5
会場地図	6
自由研究発表と高校生・大学生による発表のプログラム	10

大会校あいさつ

日本子ども家庭福祉学会第26回全国大会の開催にあたって

第26回全国大会 大会長 山野則子
(大阪公立大学 教授・スクールソーシャルワーク評価支援研究所 所長)

日本子ども家庭福祉学会が設立されて26年が経ちました。子どもをめぐる社会的課題がますます深刻化・多様化するなか、これに抗うわれわれの営みに、一定の進捗と成果もみられます。たとえば、当事者の活躍や当事者の声を尊重する活動から、ヤングケアラーやジェンダーの問題、社会的養護にまつわる課題などが可視化され、社会に認知されるようになりました。

公共政策レベルでの近年の変革、すなわちこども家庭庁の創設、こども基本法の制定、「こどもまんなか社会」というスローガンの設定は、長い目で見れば児童福祉の歴史の画期となるかもしれません。単なる制度設計に終わらない研究と実践を志す我々には、もちろん、これから「こどもまんなか社会」という骨組みに、中身を伴わせ、機能させていく大役が待っています。

そこでいま、「こどもまんなか社会」とは何を意味するのか、あらためて考えてみる必要があります。ではないでしょうか。重要な点が、3つあると思います。第一に、こどもを主語に発想する思考を徹底すること。ときに大人の都合や管理の効率とは対立する、こどもたちがストレスなく不安や想いを発信でき、手を差し伸べてもらう状況(条件)を創ること、でしょう。我々に、確固たる意志が必要です。第二に、子ども家庭福祉の対象は「支援が必要な特別な子ども」ではなく、「すべての子ども」であるということ。どんな立場の、どんな子どもも、すべての子どもが「まんなか」です。これまで児童相談所で保護し、社会的養護で対応するとされた子どもたちは、すべての子どもの1%を満たしません。見えない苦しみとたたかっている子どもや、不必要な苦しみにさらされている自覚すらもない子どもが目の前にいるかもしれません。彼女／彼らに気づくことができる社会が必要です。

最後に、「こどもまんなか家庭」でも「家庭まんなか社会」でもなく、「こどもまんなか社会」であるという点です。これまでの「子ども家庭福祉」では、子どもの権利条約にもある「子どもには家庭が必要」との考え方のもと、子どもを「家庭」という枠組みの中でとらえ、親・家庭の養育力を向上させるような「家庭/家族支援」を重視する傾向にありました。子どもを360°包含する家庭があり、その外に社会があるイメージでしょうか。しかし、「こどもまんなか社会」で描かれるのは、中心に子どもがいて、そのまわりに社会がある、社会のアクターには、学校があり、地域があり、専門機関があり、…そのひとつとして家庭があるという構図です。子育ての責任を家庭や親だけに求めるだけではなく、地域や社会全体で子どもを支え、子どもの主体性や人権を尊重しながら育てていく、そんな未来社会を目指した研究、実践、制度設計が求められています。

そのようなことを視野に、今大会では、本学会の名称にもなっている「子ども家庭福祉」を改めて再考するという意味を込めて、「子ども“家庭”福祉」から「子ども“社会”福祉」へのテーマを掲げました。子どもにとっての親・家族のありようだけにとどまらず、社会の一員である私たち一人ひとりが、子どものためにすべきことは何か、一緒に考えてみたいと思います。

開催概要

1. 日程

2025 年 6 月 7 日(土)・8 日(日)

2. 会場

大阪公立大学中百舌鳥キャンパス(大阪府堺市中区学園町 1-1) U ホール白鷺、B3 棟

3. 大会テーマ

「子ども“家庭”福祉」から「子ども“社会”福祉」へ

4. 大会スケジュール

第 1 日目 6 月 7 日(土) 会場: U ホール白鷺

12 時 30 分～

開場

13 時 00 分～13 時 30 分 通常総会 ※ご昼食をおすませのうえ、ご参集ください。

13 時 40 分～13 時 50 分 開会式

13 時 50 分～15 時 35 分 基調講演「誰一人取り残さない子ども家庭福祉への挑戦」

山野則子氏(大阪公立大学 教授)

パネルディスカッション

パネリスト:

猪俣健一氏(阪南市社会福祉協議会 事務局次長)

四柳千夏子氏(三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員)

コメンテーター: 山野則子氏(大阪公立大学 教授)

コーディネーター: 東根ちよ氏(大阪公立大学 准教授)

15 時 50 分～16 時 45 分 シンポジウム「家庭で子育てから、社会で子育てへ」

シンポジスト:

佳山奈央氏(おやこの世界をひろげるサードプレイス

PORTO 代表)

田崎由佳氏(やんちゃまファミリーwith 理事長)

コメンテーター: 山本真実氏(東洋英和女学院大学 教授)

コーディネーター: 木曾陽子氏(大阪公立大学 准教授)

17時00分～18時10分 シンポジウム「地域における非行少年の育ちなおし」

シンポジスト:

武藤亜以氏(児童自立支援施設 神戸市立若葉学園)

沼田好司氏(法務省中部矯正管区更生支援企画課、
元瀬戸少年院)

黒川洋司氏(良心塾 代表取締役)

コメンテーター:掛川直之氏(立教大学 准教授)

コーディネーター:伊藤嘉余子氏(大阪公立大学 教授)

18時30分～20時00分 情報交換会(懇親会)会場:学生会館B12棟

第2日目 6月8日(日) 会場:B3棟

09時00分～ 開場

09時30分～12時10分 分科会(1)「自由研究発表」

12時10分～12時40分 ランチセッション「民間団体活動推進調査研究事業報告」

12時50分～14時10分 高校生・大学生による発表

14時20分～17時00分 分科会(2)「自由研究発表」

※ランチセッションは、B3棟1階の117で行います。その他の発表は複数の教室に分かれますので、10ページからの「自由研究発表と高校生・大学生による発表のプログラム」にてご確認ください。

5. 共催

大阪公立大学

大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類

大阪公立大学 教育福祉研究センター

大会参加者の皆様へ

【参加受付】

- 1日目:Uホール白鷺ホワイエ(ロビー)、2日目:B3棟1階で受付を行います。
- 受付は「事前申し込み参加者」と「当日申込参加者」に分かれています。
- 参加証兼領収証は、大会当日受付にてお渡しします。領収証は「参加証兼領収証」の領収証部分に印刷されています。

【参加費】

	大会参加費	
	事前申込	当日申込
会員	4,000 円(不課税)	5,000 円(不課税)
非会員	5,000 円(税込)	6,000 円(税込)
大学生	1,000 円(税込)	
高校生	無料	

【クローク】

- 1日目、2日目とも、受付にてお預かりいたします。
- クロークへ預けた荷物は、1日ごとに受け取りをお願いします。夜間のお預かりはできません。また、貴重品の管理は各自でお願いします。

【昼食について】

- 昼食はご持参ください。
- 大会当日、会場となるキャンパス内の食堂・購買コンビニは閉店となっています。
- 2日目の昼食会場(休憩室)については、当日掲示でお伝え致します。

【書籍販売出店場所について】

- 1日目、2日目とも、出版社による受付付近での書籍販売を予定しております。

【その他】

- 講演中の撮影および録音は固くお断りします。
- 会場内では、携帯電話は電源をお切り頂くか、マナーモードに設定してください。
- 大会事務局に御用の方は、大会受付までお越しください。

自由研究発表について

【集合場所】

- 司会・発表者は、ご発表時間の 10 分前までに各教室にお集まりください。

【当日の配布資料】

- 発表者は、会場で配布する資料を 30 部お持ちください。プライバシーや倫理面への配慮をお願いいたします。発表後回収が必要な場合は、あらかじめ会場担当者にお伝えください。
- 大会事務局では、印刷・コピー業務の対応はできませんのでご注意ください。

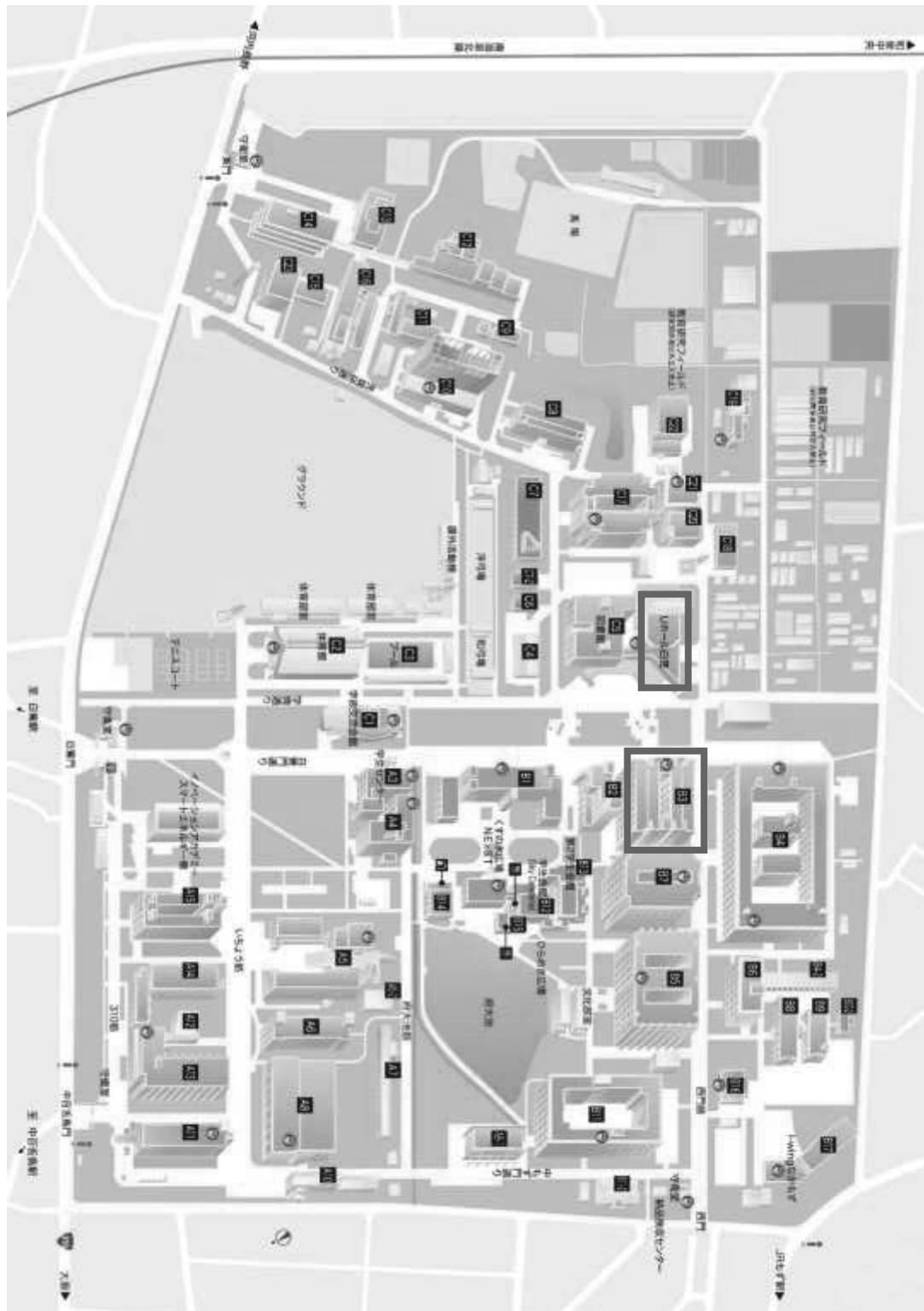
【使用機器】

- 会場にはプレゼンテーション用のパソコンを準備します。発表者は会場設置のパソコンを用いて発表してください。ご自身のパソコンの持ち込みはできません。会場設置のパソコンの規格は以下の通りです OS:Windows11(64Bit) 主な導入ソフトウェア:Office Professional Plus 2019もしくは2021 (Excel, Word, PowerPoint, Access)
- 発表当日は、発表データをご自身の USB 等に入れてお持ちください。データをあらかじめお送りいただくことはできません。

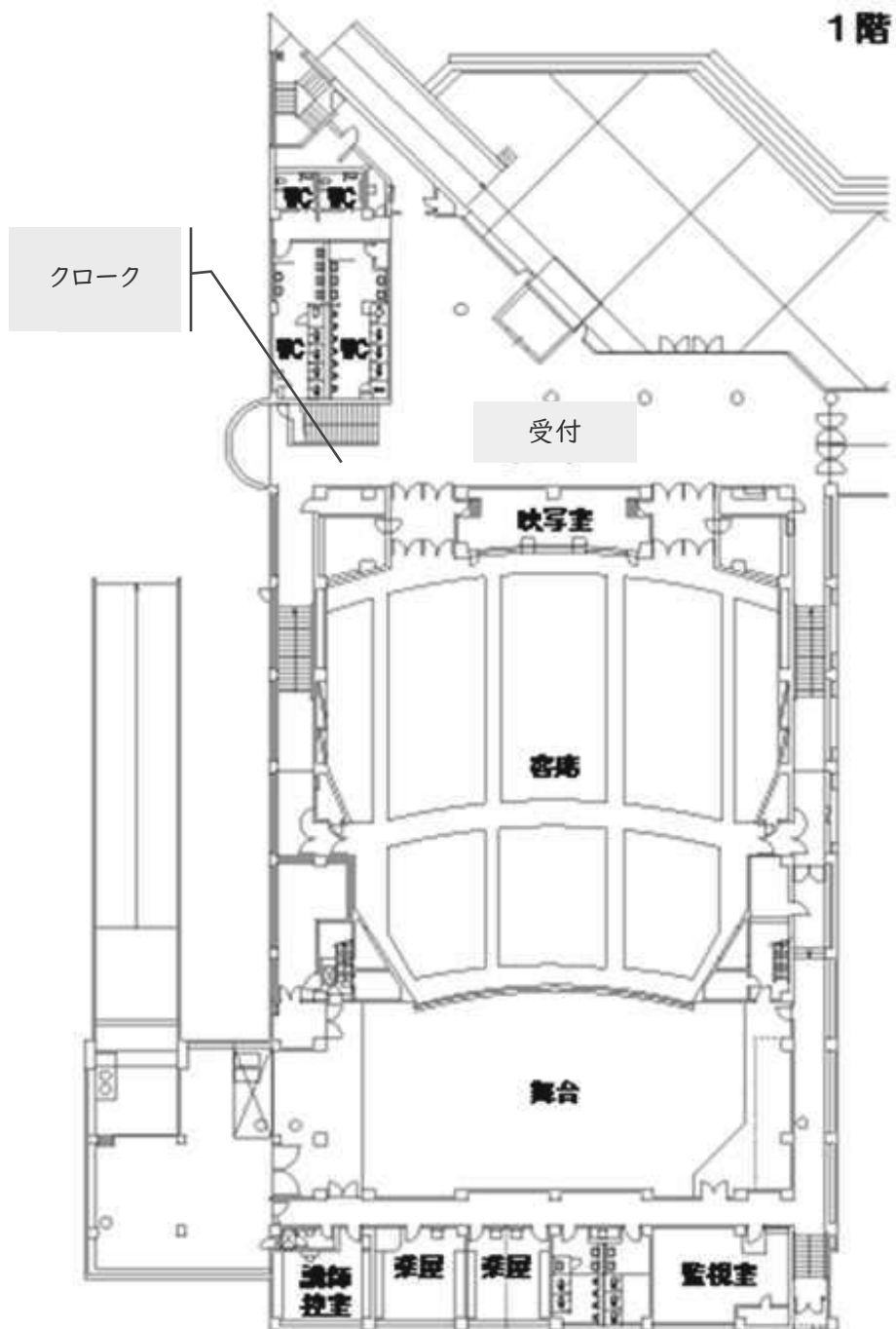
【発表時間】

- お一人の持ち時間は 40 分(報告 20 分、質疑 20 分)です。

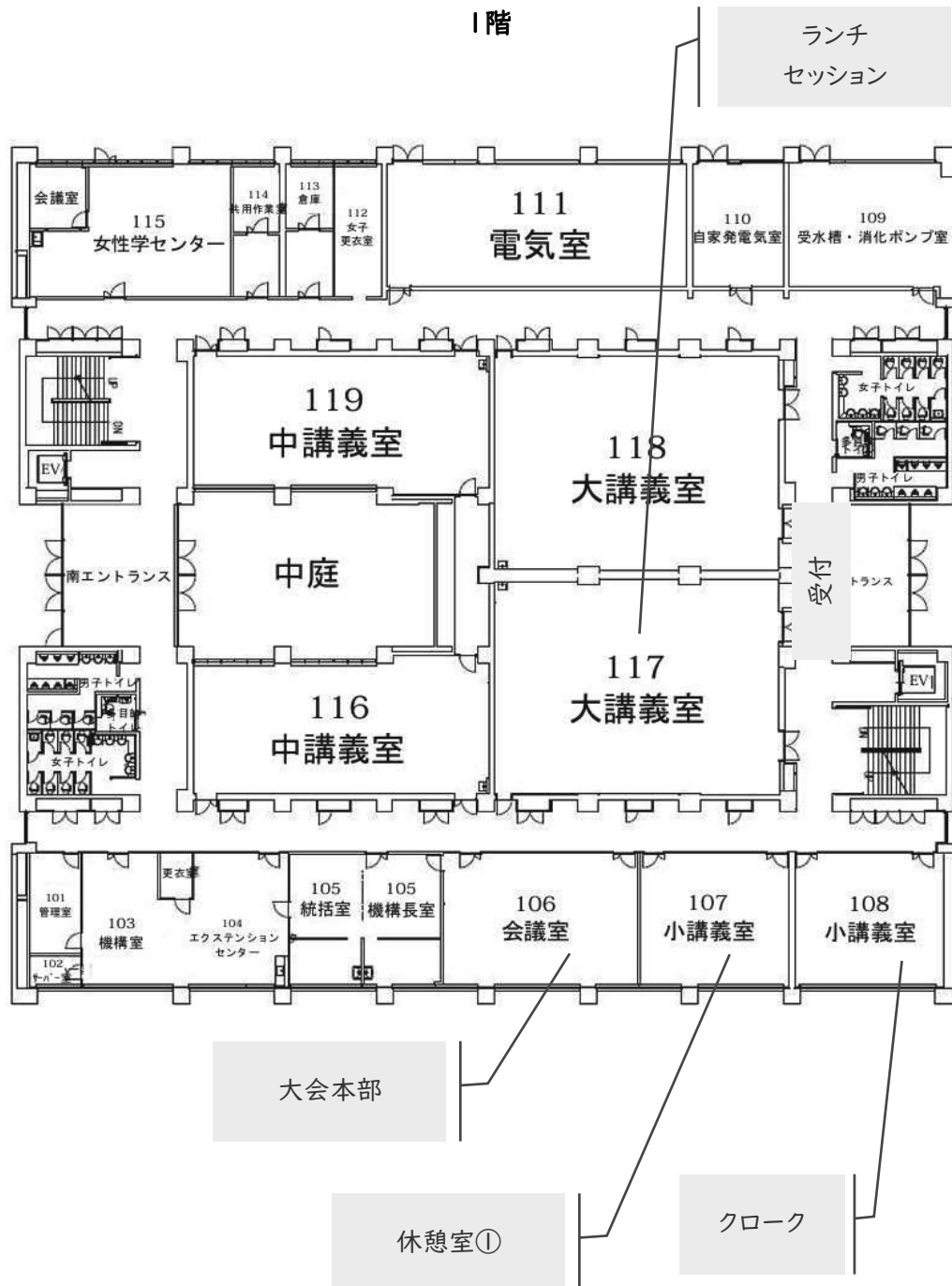
会場地図



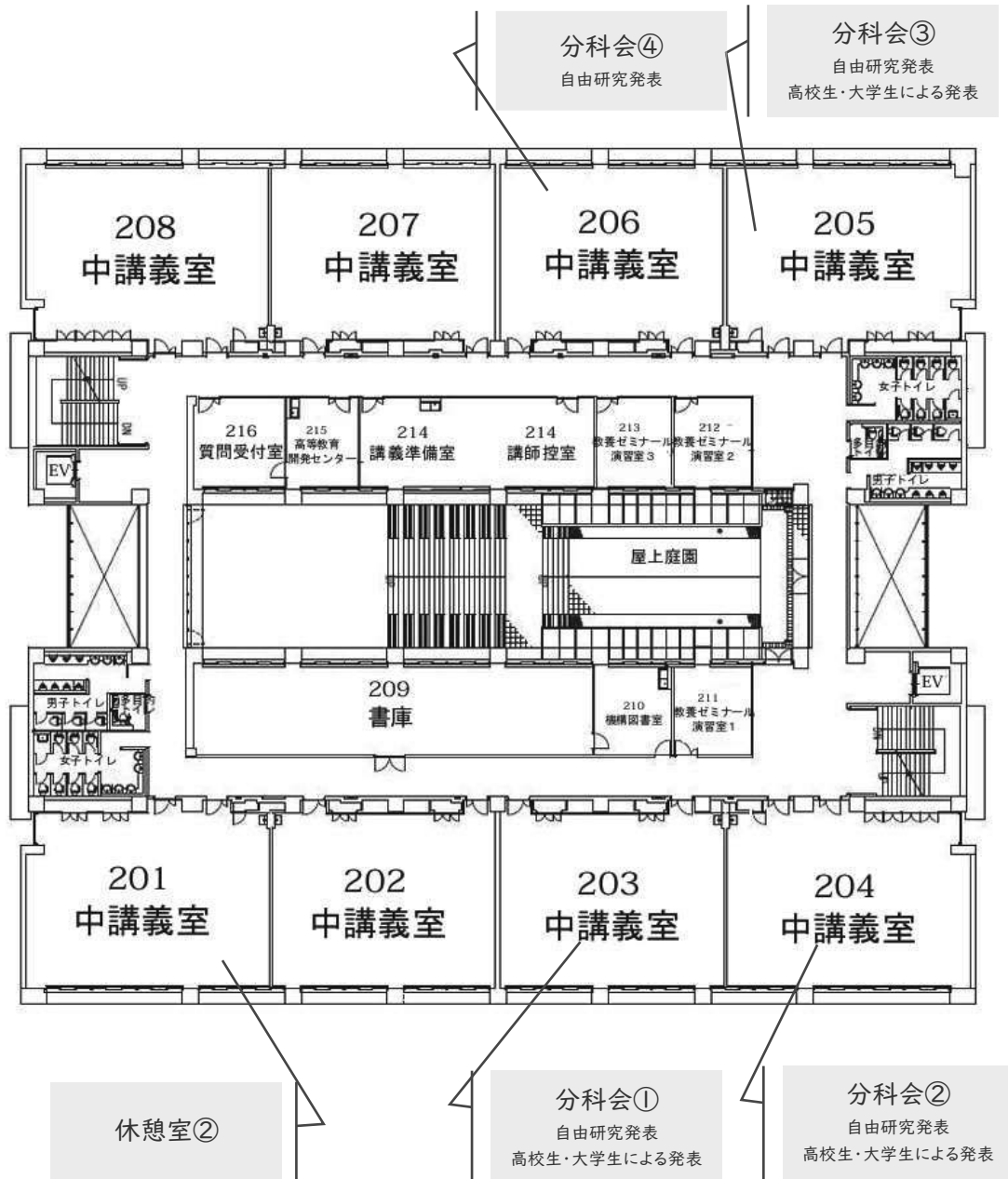
1日目会場:Uホール白鷺



2日目会場:B3棟



2階



自由研究発表と高校生・大学生による発表のプログラム

2025 年 6 月 8 日(日)

午前の部 9 時 30 分～12 時 10 分

※共同研究報告の場合は、筆頭演者の氏名と所属を記載しています。

分科会(1)① 司会：田中真衣・青山有希 場所：B3 棟 2 階 203

9 時 30 分～10 時 10 分	在日外国にルーツを持つ子どものソーシャルキャピタルに関する研究 —ソーシャルキャピタルの変容プロセスに焦点を当てて— ○WU FANGDI(大阪公立大学大学院)
10 時 10 分～10 時 50 分	医療的ケア児と家族のための ACP ノートを用いた心理職の ACP 実践と家族の語り ○青山有希(東京女子体育大学・東京女子体育短期大学)
10 時 50 分～11 時 30 分	地域子育て支援センターによる包括的相談支援事業の体系化と生活課題 ○伊達諒(高知学園短期大学幼児保育学科)
11 時 30 分～12 時 10 分	地域協働型支援システム構築におけるスーパーバイザーの役割—長野県医療的ケア児支援システム分析から— ○田中真衣(白梅学園大学子ども学部)

分科会(1)② 司会：岡安朋子・林萍萍 場所：B3 棟 2 階 204

9 時 30 分～10 時 10 分	SSW の雇用時間と小中学校担任教員の業務負担との関連—教員へのタイムスタディ調査を通して— ○駒田安紀(大阪公立大学現代システム科学研究科)
10 時 10 分～10 時 50 分	コロナ禍における子どもの登校苦痛感の関連要因に関する検討 ○林萍萍(大阪商業大学)
10 時 50 分～11 時 30 分	スクリーニング会議・チーム会議の開催と SSW の会議参加の効果—小学校における不登校好転率の側面から— ○榎本久美子(大阪公立大学現代システム科学研究科)
11 時 30 分～12 時 10 分	ヤングケアラー支援における校内連携：スクールソーシャルワーカーの活用課題 ○岡安朋子(早稲田大学人間科学学術院)

分科会(1)③ 司会：松崎友美・永井友基 場所：B3 棟 2 階 205

9 時 30 分～10 時 10 分	児童福祉司研修の演習手法と効果に関する探索的研究 ○須江泰子(日本社会事業大学専門職大学院／筑波大学大学院人間総合科学学術院ヒューマン・ケア科学)
--------------------	--

10時10分～10時50分	“きょうだい間性虐待”への対応におけるアセスメントモデル開発に関する研究 ～児童相談所における多職種連携アセスメントモデル開発～ ○永井友基(神戸市北神区役所保健福祉課)
10時50分～11時30分	児童養護施設における小規模ケア担当職員の心理コンサルテーションに対するニーズに関する文献レビュー ―小規模ケア担当職員の困難感に焦点を当てて― ○李瀟瑩(大阪公立大学大学院現代システム科学研究科博士後期課程)
11時30分～12時10分	意見表明等支援事業のあり方についての検討―神奈川県 施設等訪問支援事業における課題と展望― ○松崎友美(子どもの虹情報研修センター)

分科会(1)④ 司会: 野口啓示・中安恆太 場所: B3棟2階206

9時30分～10時10分	児童養護施設入所児童の向精神薬服用に関する施設職員の役割 ○川英友(静岡英和学院大学)
10時10分～10時50分	小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)における養育の課題への対処 ―養育者へのインタビュー調査から― ○中安恆太(和泉短期大学児童福祉学科)
10時50分～11時30分	乳児院における第三者評価データを用いた構造と過程の関連性 ○楊慧敏(県立広島大学保健福祉学部)
11時30分～12時10分	ファミリーホームの養育者の抱える育児困難感とバーンアウト―全国アンケート調査から― ○野口啓示(福山市立大学教育学部)

高校生・大学生による発表 12時50分～14時10分

分科会① 司会：藤岡孝志・曾田里美 場所：B3棟2階203

12時50分～13時10分	ようこそ大学へ！プロジェクト—施設等の子どもたちへの学習支援— ○名古屋市立大学人文社会学部谷口由希子ゼミ (名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科)
13時10分～13時30分	おはなしてできるみぢかなおとな～動画とリーフレットで伝えるチームあどぼ～ ○常葉大学保育学部 山屋ゼミ 安藝万葉 (常葉大学保育学部保育学科)
13時30分～13時50分	子どもを応援できる社会づくりへの課題—社会的養護支援者へのインタビュー調査から— ○佐伯蓮奈(AICJ 高校)
13時50分～14時10分	レアレアプログラムの開発と検証報告 ○白梅学園大学子ども学部田中ゼミ 及川華蓮、村田結香 (白梅学園大学子ども学部)

分科会② 司会：上鹿渡和宏・小野セレストア摩耶 場所：B3棟2階204

12時50分～13時10分	こどもやその保護者に向けての QOL とユニバーサルスポーツ活動についてのスコーピングレビュー ○御供嵩(大宮開成中学・高等学校)
13時10分～13時30分	高校生が考える小学生支援のカタチ ～AIDMA モデルで“学びたい”を育てる～ ○淑徳高等学校社会福祉部 荻野紗良、金田実夕、小久保千咲、大久保鈴音、 川原彩季、平井美裕、若松彩巴、西原果凜 (淑徳高等学校)
13時30分～13時50分	キャンパス周辺地域での子育て支援 ～大学ボランティアセンターにおける活動を通じて～ ○大阪公立大学ボランティア・市民活動センターV-station 森田崇太郎、本那汐音 (大阪公立大学 現代システム科学域)
13時50分～14時10分	浜松の子ども食堂の現在の取り組みと今後への期待 ○荒川芽衣、志村菜穂、高瀬柚乃 (聖隷クリストファー大学社会福祉士学部)

分科会③ 司会：山野則子・有村大士 場所：B3 棟 2 階 205

12 時 50 分～13 時 10 分	“ちがい”が育てる未来 ～ごちゃまぜ空間で生まれる子どもたちの力～ ○荒川紗季、酒井紗綾 (同志社大学社会学部社会福祉学科)
13 時 10 分～13 時 30 分	学校で子どもたちが笑顔でいられるために～「正しい理解」とは何か ○大本花香(兵庫県立三田祥雲館高校)
13 時 30 分～13 時 50 分	カンボジアの教育の現状 ～質の高い教育を目指して～ ○土嶋璃緒(淑徳与野高等学校)
13 時 50 分～14 時 10 分	教師とスクールソーシャルワーカーの連携における子どもの権利保障 ○福井綾乃(山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科)

午後の部 14 時 20 分～17 時 00 分

※共同研究報告の場合は、筆頭演者の氏名と所属を記載しています。

分科会(2)① 司会：南野奈津子・高橋順一 場所：B3 棟 2 階 203

14 時 20 分～15 時 00 分	児童養護施設におけるリービングケアの困難性と緩和方策ー 児童養護施設職員を対象としたテキスト分析ー ○榎原伴子(公立大学法人名桜大学人間健康学部)
15 時 00 分～15 時 40 分	児童養護施設の第三者評価データと生成 AI スコアによるアウトカム識別機械学習モデル ○高橋順一(新見公立大学健康科学部)
15 時 40 分～16 時 20 分	児童自立支援施設への入所経験が施設退所後の人生におけるレジリエンスに与える影響ー施設退所者へのインタビュー調査を通してー ○石田龍太(関西学院大学人間福祉学部)
16 時 20 分～17 時 00 分	社会的養護における外国にルーツをもつ子どもへの支援ーオーストラリアでの調査よりー ○南野奈津子(東洋大学福祉社会デザイン学部)

分科会(2)② 司会：厨子直之・小倉常明 場所：B3 棟 2 階 204

14 時 20 分～15 時 00 分	視覚障害のある女性の妊娠・出産・育児に関する相談支援の実践と課題ー障害者相談支援事業所への質問紙調査からー ○狩野晴子(相模女子大学人間社会学部)
15 時 00 分～15 時 40 分	ハンセン病療養所で産まれた未感染の子どもに関する一研究ー私的養育から社会的養育への連携ー ○小倉常明(東京通信大学人間福祉学部)
15 時 40 分～16 時 20 分	民間シェルターを利用した児童養護施設退所女性へのソーシャルワーカーによる自立支援プロセスー修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)による分析からー ○神山典子(大阪公立大学大学院)
16 時 20 分～17 時 00 分	子どもの健康を高める母親の心理的資本の条件探索 ○厨子直之(和歌山大学経済学部)

分科会(2)③ 司会：香崎智郁代・亀崎美沙子 場所：B3 棟 2 階 205

14 時 20 分～15 時 00 分	保育における保育者の行動規範に関する検討ー「子どもに対する倫理責任」を手がかりにー ○亀崎美沙子(日本社会事業大学社会福祉学部)
15 時 00 分～15 時 40 分	A市における公立保育所の相談支援の定着をめざした取り組みーアセスメントシートの導入を手がかりにー ○手塚崇子(川村学園女子大学教育学部)

15時40分～16時20分	保育士等を対象とした「こども家庭ソーシャルワーカー」に関する意識調査からの検討～B 県におけるアンケート調査を参考に～ ○香崎智郁代(九州ルーテル学院大学)
---------------	--

分科会(2)④ 司会：栗山直子・千賀則史 場所 B3棟2階206

14時20分～15時00分	貧困状況の経年変化及び不登校・ヤングケアラー・健康状態との関連の検討～「令和6年度千葉県こどもの生活実態調査」の分析結果より～ ○野田鈴子(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)
15時00分～15時40分	ヤングケアラーのトリガーとしての家族規範 - 半構造化インタビュー調査を通じて - ○栗山直子(追手門学院大学)
15時40分～16時20分	地域における子どもと家族へのソーシャルワーク実践に関する研究 - 地域における「つながり」の醸成に着目して ○加藤洋子(聖心女子大学)
16時20分～17時00分	家庭訪問型支援における統合的アプローチによる心理社会的支援 ○千賀則史(関西大学人間健康学部・心理学研究科)

日本子ども家庭福祉学会第26回全国大会プログラム

編集・発行：日本子ども家庭福祉学会第26回全国大会 運営事務局

大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類

E-mail: gr-sss-kodomokatei-gakkai@omu.ac.jp

HP: <https://www.k-gakkai.jp/jscfw26/>